

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971000258		
法人名	社会福祉法人 蒼隆会		
事業所名	グループホームすばる		
所在地	奈良県香芝市鎌田157-1		
自己評価作成日	令和5年5月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosvoCd=2971000258-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和5年6月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私どもグループホームすばるは、同敷地内に併設する特別養護老人ホームとデイサービス、居宅介護支援事業所とともに20周年を迎えることができました。コロナ禍で地域の方との交流も激減した中、感染対策の上、20周年記念事業を無事に終えることができました。地域の方々との交流と、支えていただけるこの環境は素晴らしいものだと感じています。グループホームでは、運動不足の改善、音楽レク、料理、農園作業、役割保持等コロナ禍で外出する機会が減ってきた分、いろいろ工夫し、企画してきました。ご利用者様に生きがいを持っていただくよう、また、居心地のいい家为目标に日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2003年3月に開設された当事業所は、同じ敷地内にある同法人の特別養護老人ホーム、デイサービス、居宅介護支援事業所と共に地域の福祉の一角を担い、地域に根ざした施設である。今年3月には、法人創立20周年を盛大にお祝いをした。管理者は利用者、家族、職員にとっても、より良いホームにしたいという熱い思いがあり、「みんな毎日 笑顔で過ごす家」という事業所の理念をつくり実現に努力している。事業所には意思表示の出来る利用者が多く、家事を分担し、皆で歌ったり、農園作業、おやつを作ったり等、活動的で明るく楽しく生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と考え、作り上げたグループホームの理念は継続しています。よりパワーアップできるように心がけています。	玄関に法人理念と共に、「みんな毎日 笑顔で過ごす家」という事業所の理念を掲げ、職員は出勤時に目に触れている。管理者は明るくチャレンジ精神旺盛で、利用者も家族も職員も、みんなの笑顔が増えるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症への配慮もあり、地域の方々との交流はできていません。	コロナ禍で、年2回の地域清掃活動には参加したが、他の交流は控えていた。今年3月に法人20周年記念行事を行い、記念講演『認知症との向き合い方』や和太鼓演奏に多数の地域住民の参加を得た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	20周年記念事業において、感染対策の上、地域の方々に講師をお招きし、認知症を理解していただけるよう講演会を開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議は、書面での報告は継続となっており、話し合いはできていません。	運営推進会議はコロナ禍のため、行政の指導で書面での開催となっていた。関係者への意見聴取は出来ていない。7月には市介護福祉課職員のみでの参加で対面での開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には連絡をし、相談をさせていただき、ご指導をいただくようにしております。	3か月に1回、市介護福祉課にて市内のグループホーム管理者が集まる報告会があり、事故報告や困難事例の相談も行っている。空き状況は毎月報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいます。身体拘束適正化検討委員会にて「よりよいケアを実現する」という目標を掲げています。	身体拘束例はない。2か月に1回、同法人の特別養護老人ホーム、通所介護と合同で身体拘束適正化検討委員会を行っている。全職員に身体拘束等に関するアンケートも取り、結果や議事録を職員に回覧し意識付けしている。起立動作が不安定な方への言葉での制止(スピーチロック)に代わる対応策はないか等、常に問題意識を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、自分が行っているケアが虐待にならないか等、気づきを指摘し合う空気作りと、朝礼で本日気をつける目標を発表し、職員全員が達成できるよう意識する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業への理解、活用はできておらず、不十分だと感じております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様に丁寧な説明を心掛け、質問などあればわかりやすくお返事させていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、運営推進会議は開催できていませんが、お電話や窓越し面会で直接ご意見が聞けることもあります。	個人の携帯電話の使用を可能にしたり、家族持参のおやつを居室に冷蔵庫を置いて自己管理してもらったり、畑仕事が好きな方に農作物を作ってもらい職員が購入するなど、できる限り利用者の思いが反映できるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で職員不足の時があり、職員会議ができづらい時、直接職員から意見等あれば法人へ伝えるようにしています。	職員から、利用者になんか喜んでもらえるための工夫や業務効率化の意見が多く出されている。職員の意見を反映して、レクリエーション内容や入浴時間の変更、外食ができなければデリバリーサービスの利用などを行った。	法人としてサービス向上のための研修を実施しているが、グループホームの職員は参加できていない状況がある。研修方法などを工夫し、計画的に研修参加ができる取り組みが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力が必要だと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍での職員不足等で、研修を受けたくとも受けられない状況があった。年間10回の研修を最低8回は受けるよう指導あり。実現できるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの管理者の方との交流はあり、参加しています。いろいろな話題を通して学ぶこともあり、とても刺激を受けます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問や体験利用など行い、ホームのことをご理解いただき、ご家族様、ご利用者様に安心していただける関係づくりを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話を伺い、私達のグループホームでできることは何かと一緒に考え、要望にできる限り沿えるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様ともしっかりと話し合いを重ね、他施設のサービスなどお伝えしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを「家」とし、それをともに支え合う役割づくりを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な出来事、ご利用者様の笑顔、表情、生活での変化などお電話や月1回のご本人様の写真入りのお便りで報告、意見をいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出も自粛し、寂しい思いをなさっていると思います。	コロナ禍で家族や近隣住民との交流は減っているが、短時間の窓越しや居室での面会を実施している。月1回送る写真も交えた個人の報告と「すばる通信」は家族に喜ばれている。家事や畑仕事、洋画鑑賞など、その人の楽しみごとの継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誰かが困っていたら、優しく声をかける、自然な形で関係性ができるように見守っています。一緒に喜び、時には悲しむ、そんな普通の日常生活が送れる環境になるように願っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了で、当施設の特養入所された方いらっしゃいましたが、相談や支援は行われていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の人生や生活に関わろうとする時、私達の価値観ではなく、自己決定を大切に、利用者様の価値観を重視することをいつも心掛けています。	意思表示できる利用者が多く、ゆっくりと話を聴き、できることの見極めをしている。お化粧、洋服選び、畑仕事、花作り、時代劇や洋画の鑑賞、LINEでのコミュニケーションなど、利用者個々の楽しみごとの把握にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前はもちろん、入所後もご家族様よりご利用者様の様々な情報をうかがうようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の言動やいつもと違うといった変化等に注意を払い、ケアに当たるように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが半年に1階、介護計画を作成、職員会議やケース記録、申し送りノート、職員との話から情報を聴取しています。	介護計画はケアマネジャーが、家族の意向、ケース記録、申し送りノートを参考に担当者会議で話し合っ作成している。介護計画の実施状況をチェックできる書面があり、毎日チェックして、原則6か月毎に更新している。	職員は、日々利用者がその人らしく、楽しく過ごしてもらうよう支援しているが、介護計画の内容には反映されていない。利用者の趣味趣向、役割、楽しみなどを踏まえ、プラス面からアプローチしたプランも介護計画の中に盛り込まれることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様のケース記録や申し送りノートを活用し、情報を共有し実践し、試行錯誤をしながら、よりよいケアにつなげられるよう努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの要望等あれば、個々のご利用者様の状態に合わせ、ケアを行うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は活用できておりません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医に継続して診察をお願いする場合と、当法人嘱託医に変更し、全面的に健康管理をお願いする場合があります。	事業所の協力医が月2回、訪問診療を行っている。希望の医師をかかりつけ医に選べ、往診も受け入れている。歯科医と歯科衛生士が月1回訪問している。マッサージ師の訪問を受けている方もいる。家族が付き添って眼科外来を受診している方もいる。週1回看護師が訪問し、健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	R5.2.7より訪問看護ステーションに来ていただいています。週1回の訪問と、24時間の電話対応、健康管理の徹底を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院された場合、入院先の看護師や相談員と連携を取り、入院中も可能であれば面談へ伺うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアに向けて、訪問看護ステーションとの連携を始めました。看取りに対する職員研修や看取り介護指針は確立しているが、早い段階からご本人家族様との話し合いはできていません。	最期はここでの利用者や家族の声もあり、令和5年2月に訪問看護ステーションとの契約ができて、終末期の24時間対応ができるようになった。看取りマニュアルも作成した。管理者は特別養護老人ホームの20年の勤務者で、看取りの経験も多数例ある。この1年で1名を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当や初期対応訓練は行えておりません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練、通報、消火訓練(2回)、総合訓練(炊き出し)、また消防に通報した際、在館人数の報告がスムーズにできるようにします。地域との連絡、協力体制を築いています。	隣接の特別養護老人ホームと合同で、5月に夜間を想定した避難訓練、10月に総合避難訓練、7月と1月には通報消化訓練を実施している。法人としてBCPを作成し、緊急時マニュアルや緊急連絡網を整備し、食品、防災用品、医薬品などの備蓄も行っている。地域の防災訓練にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々実践するように心掛けており、定期的に不適切ケアをしていないかの自分自身、全体としてのアンケートが実施されています。	人生の先輩として丁寧な言葉遣いを心がけているが、堅苦しくなりすぎないよう利用者に合わせ言葉掛けをしている。不適切と思われる言動はその場で注意している。法人全体での委員会活動でアンケートの機会もあり、接遇について学ぶ機会になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いを伺うことができるような、ゆったりした雰囲気作りを心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位にならないよう、利用者様本位を心掛けるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔後化粧水やクリームをつける、起床後お化粧をする、髪留めをする等、ご自宅でされていたことをしていただけるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事やおやつの準備はご利用者様とともにを行うようにしております。	副食は隣接施設の厨房で作ったものが運ばれるが、ご飯と汁物はホームで作っている。月に2・3回はイベント時などに昼食を手作りし、収穫した玉ねぎでハヤシライスを作ったこともある。漬物、奈良漬、かき餅、梅シロップ、半夏生餅、蒸し饅頭など季節のものを皆で作楽しんでる。ハンバーガーを買ってきて楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量把握のため、チェック表をつけ、ご利用者様に応じた食事量を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと口腔体操の実施、また歯科医師により月1回以上の訪問診療により口腔内の状態を診ていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用し、排泄間隔の把握と誘導を行っています。下肢不安定になられている方でトイレまで間に合わずリハビリパンツへ移行された方が1名いらっしゃいます。	入居者9名中、布パンツ使用者が4名、リハビリパンツの方が5名、夜間のみオムツを使用している方が2名いる。入所時オムツ使用で全介助の方が、トイレまでの移動も含め自立までADLが向上した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らざるを得ないこともありますが、水分の充足やオリゴ糖、乳酸菌を摂っていただいている方もいらっしゃいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で曜日を決めています。時間帯は午前中で、入浴の順番は決めています。	月曜から土曜まで毎日お風呂を準備し、週2回は入浴できるよう支援している。希望者には同性介助に対応している。入浴剤は使っていないが、菖蒲湯、ゆず湯は楽しんでもらっている。入浴時は利用者からゆっくり話が聴ける時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はそれぞれの時間の過ごし方をされてから就寝されております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	重要な薬について、目的、副作用等理解しており、管理・投薬に至るまで職員が行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の状態に合わせて役割をお願いし、レクリエーションでは個人レクや集団レク、園庭での食事や農園作業など行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	建物の外へ自由に出ていただけますが、付き添いや一緒に散歩もします。コロナ禍の際、ご家族様との外出は控えていただいています。	コロナ禍でも天気が良ければ、毎日でも出て法人施設内の散歩を散歩したり、畑仕事や草花への水やりをしている。遠出が出来ないので、ホーム内でのレクリエーションに力を入れており、音楽レクで発表会も行ったりしている。4月には、近くにある出屋敷公園で花見を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお財布を持たれている場合もありますが、基本はご家族様からお預かりしたお金を事務所で管理させていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればできます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはご利用様様がロズさんでもうえるように大きく歌詞を書いた模造紙や、利用者様の作品、季節の壁画なども飾っています。うさぎを飼っており、採光がまぶしくないよう心掛けております。	広い居間兼食堂を取り囲むように居室、浴室やトイレが配置され、中庭が吹き抜けの明り取りになっていて、うさぎの運動場になっている。季節を感じられる飾り付けや模造紙に大きな文字で書かれた歌の歌詞、図書のコーナーなど利用者が興味を引く工夫と、寛げる空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間からすべての居室が見渡せるようにリラックスしてソファや椅子に腰かけていただき、居室に戻られる方は少ないです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には今まで使っておられた馴染みの椅子や家具、身の回りの物をご持参いただくようお願いしており、落ち着いて過ごせる環境であるように配慮するようしております。	居室には、ベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが設置されている。筆筒やテーブルなど好みの家具を持ち込んで、塗り絵や作った作品で居室を飾り、その人らしい居室づくりがなされている。居室の床と敷地の地面が同じ高さで、掃き出し窓から直ぐに外に出ることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族様からのお話をお聞きしたことや職員同士の情報を共有し、「できること」「わかること」に視点を当て、日々生かせることができるよう工夫しています。		